

シトラスリボンプロジェクトへの賛同と啓発に対する本市の認識は

問 アフターコロナを視野に入れたまちづくりとして、シトラスリボンプロジェクトに賛同し、本プロジェクトの趣旨を啓発すべきと考えるが、本市の認識は。

答 市長／シトラスリボンプロジェクトは、新型コロナウイルス感染症による誹謗中傷や差別、偏見をなくし、誰もが安心して暮らせるまちづくりを進める上で重要な取組であると認識しており、市内においては、小中学校で児童生徒などが作成したリボンを高齢者介護施設や地区センターに届けるほか、事業者が独自に

リボンを製作し、販売するなどの啓発活動が行われている。本市としても、今後、市ホームページで本プロジェクトへの賛同を表明するとともに、本プロジェクトに係る取組を進めている市内の団体等を紹介していく。また、公共施設等で啓発チラシの配布を行うとともに、広報ぬまづやSNSを通じて周知・啓発を図ることにより、本プロジェクトへの賛同の輪を広げていく。



梶 泰久



発達障害児への支援策は

問 発達障害の可能性がある児童生徒を早期に発見し、対応するための小中学校における取組は。

答 教育長／学習状況や学校生活において、児童生徒に気になる表れが見られた場合や保護者からの相談などがあつた際には、特別支援教育コーディネーターの資格を持つ教職員を中心にケース会議を開催した後、医師や臨床心理士が該当児童生徒を観察・協議した上で、市が就学支援委員会を開催し、できる限り早期の段階で、発達障害に係る通級指導教室への入級につなげている。

問 発達障害児への教育施策は。

答 教育長／発達障害に対する理解や診断基準の普及等により、発達障害と診断される児童生徒が増加する中、発達の程度に寄り添った適切な支援体制を充実させることが、児童生徒の健全な育成に欠かせないものであると認識している。そのため、通常学級に在籍する発達障害を有する児童生徒への指導の充実を図るため、五つの小中学校において、七つの通級指導教室を開設しており、発達障害の児童生徒数の増加に合わせて、開設校や開設教室を増やしていく。

霞 恵介



大きな発展の可能性を秘めた愛鷹山麓に対する認識は

問 愛鷹山麓について、①その地域資源に対する本市の認識は。②林業と農業の現状に対する認識は。

答 市長／①愛鷹山麓は、豊かな自然に恵まれ、本市を代表する地域ブランドであるぬまづ茶やあしたか牛の産地であるほか、高尾山古墳などの貴重な文化財も存在している。これらの地域資源は、市内外に誇れる宝であり、これらを最大限に活用したまちづくりを進めることが必要であると考えている。

産業振興部長／②林業については、木材価格の低迷に伴う生産活動の停滞により伐採時期を過ぎたヒノキが多く存在しており、また、農業については、農業従事者の高齢化や後継者不足に伴い荒廃農地が増加するなど、いずれも厳しい状況にあると考えている。本市としては、愛鷹山麓における農業の振興を図るため、販路拡大や生産性向上のための農地集積及び基盤整備を引き続き実施するなど、担い手の確保や荒廃農地の解消に努めていく。



愛鷹山麓に広がる茶畑は美しい景観を創り出す

井原 三千雄



ワクチン接種における混乱の少ない予約手続の確立は

問 新型コロナウイルスワクチン接種について、①高齢者への接種の状況は。②四月二十二日から開始した高齢者のワクチン接種の第一次予約時には電話がつながりにくいなどの混乱が見られたが、混乱の少ない予約手続の確立に向けた取組は。

答 市民福祉部長／①本市における高齢者への新型コロナウイルスワクチンの接種状況については、令和三年六月十三日時点で、一回目接種済みが一万九千二百二十人で高齢者全体の三十・二%、二回目接種済みが二千八百八十人で高齢者全体の三・四

%である。②五月二十五日から開始した高齢者への接種の二次募集に当たっては、コールセンターの電話回線を増設するとともに、インターネット予約の活用を勧奨するチラシの全戸配布や予約方法の動画配信、地区センター等への予約相談員の配置などを実施し、一部電話がつながりにくい状況はあつたが、多数の予約が確保できた。今後予定している高齢者以外の予約においても、インターネット予約の活用について、市民の協力が得られるよう、周知を図っていく。

渡部 一二実

